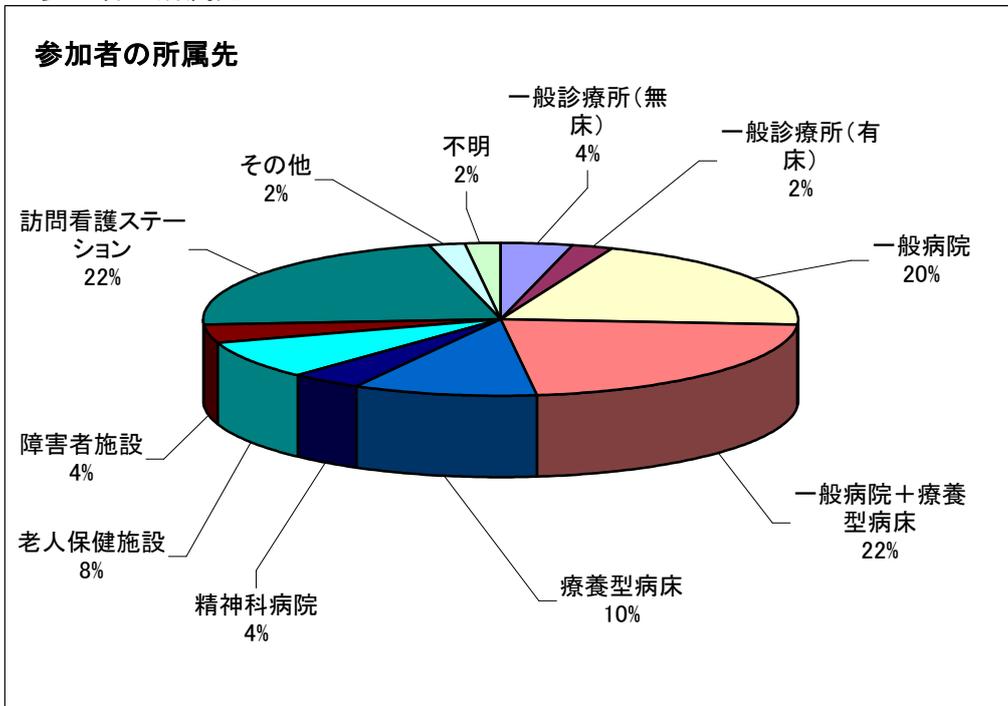


第1回PDN(PEGケア)セミナー・アンケート結果 平成18年10月28日(土)
(サンプル総数50)

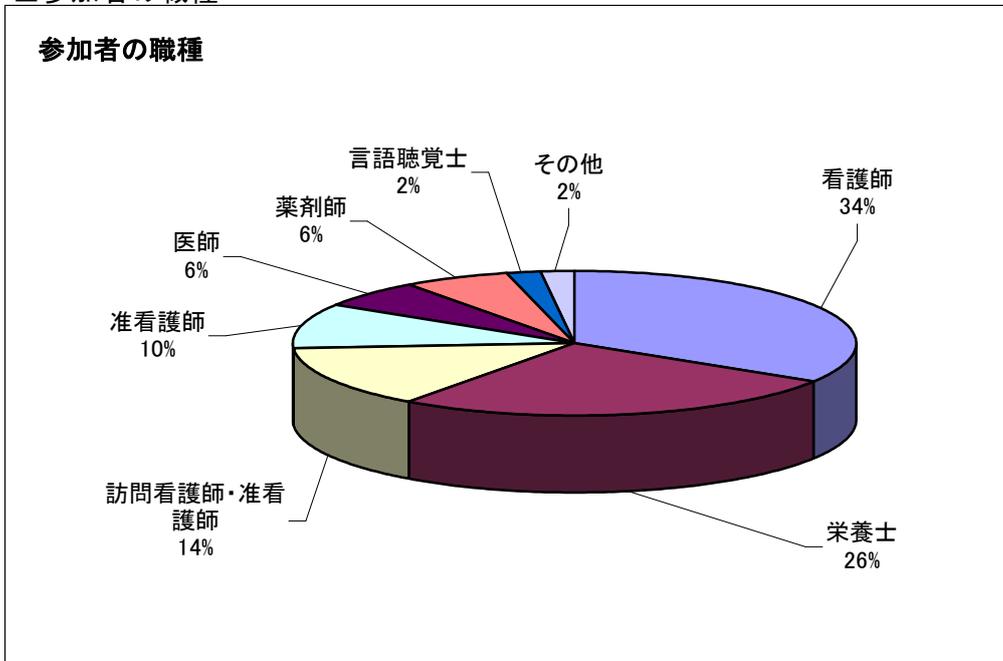
I. 参加者のプロフィール

■参加者の所属先



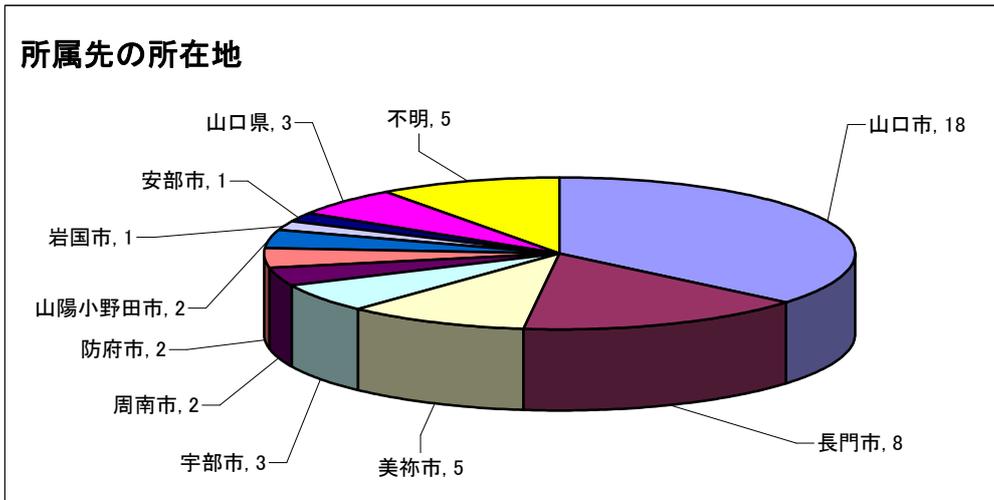
その他:在宅複合型施設

■参加者の職種

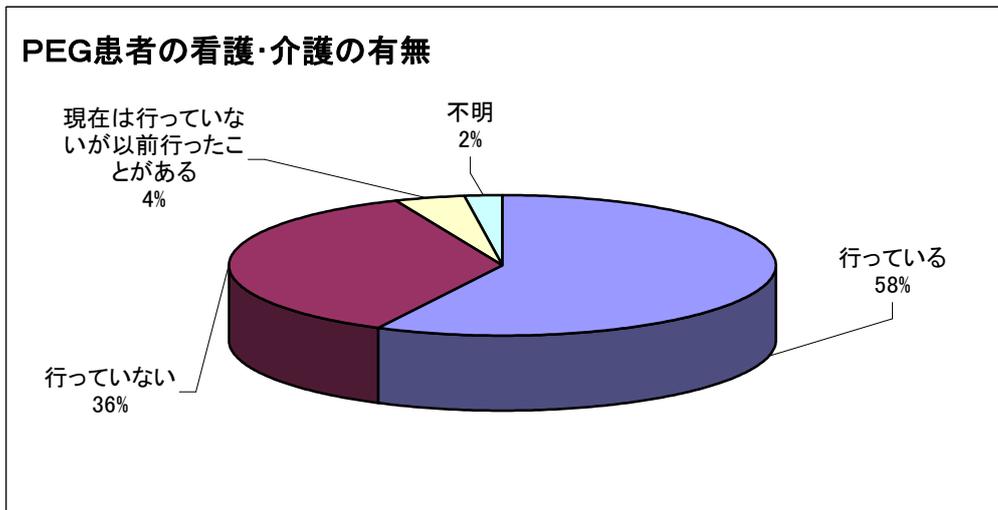


その他:臨床検査技師

■ 所属先の所在地

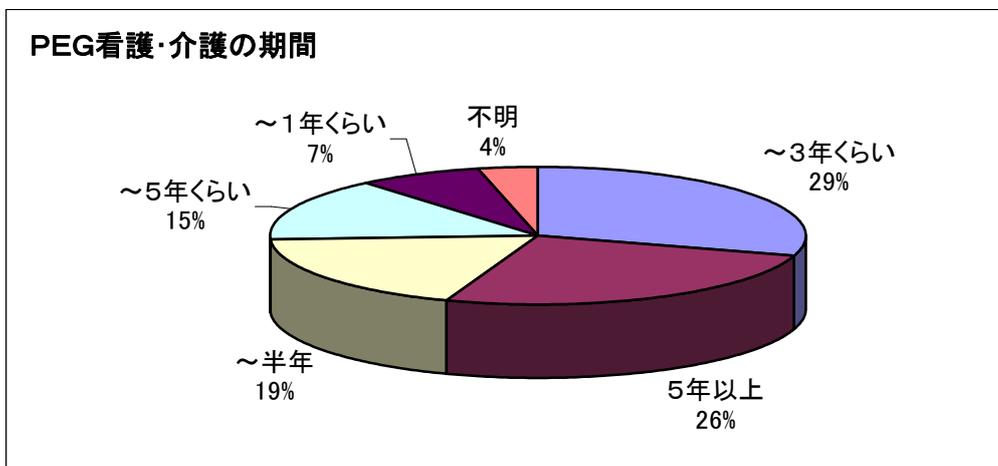


■ PEG患者の介護・看護の有無(医師以外の参加者について)



N=47

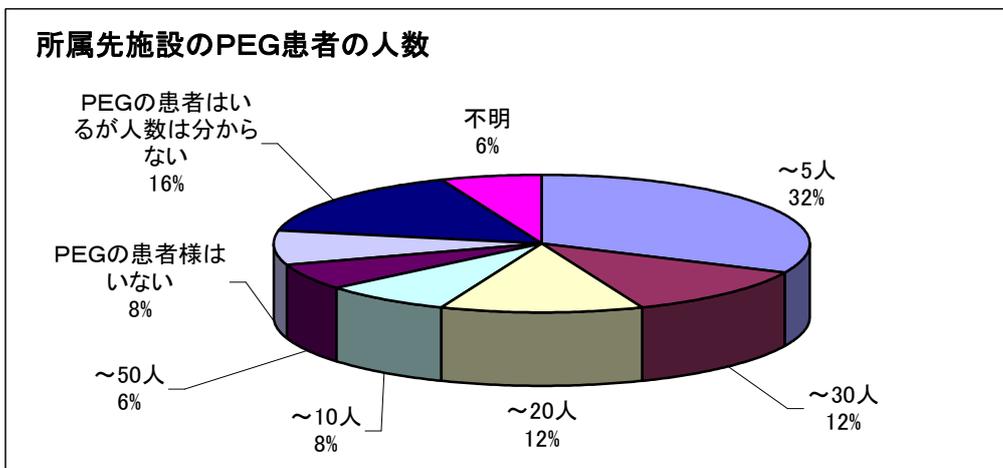
■ PEG介護・看護の期間(看護・介護を行っている人について)



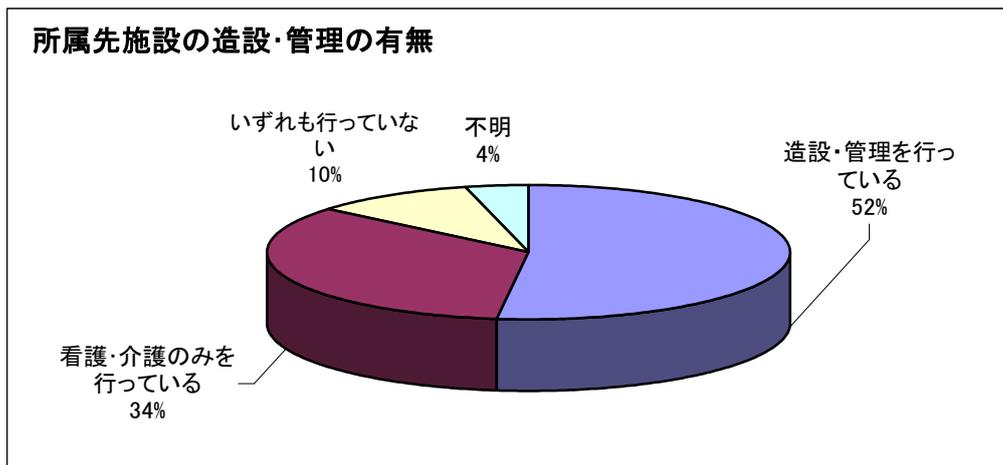
N=27

II. 所属先施設のPEGの現状 N=50

■ 所属先施設のPEG患者の人数

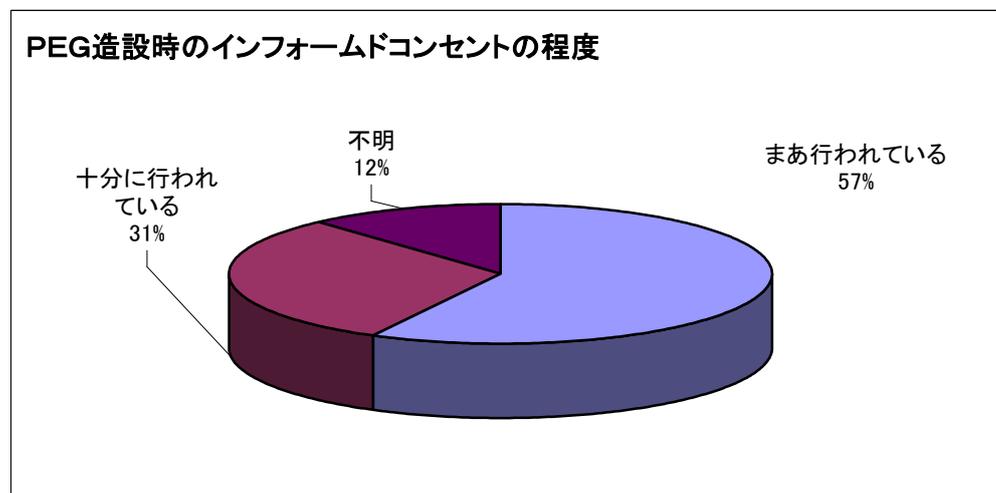


■ 所属先施設のPEG造設・管理の有無

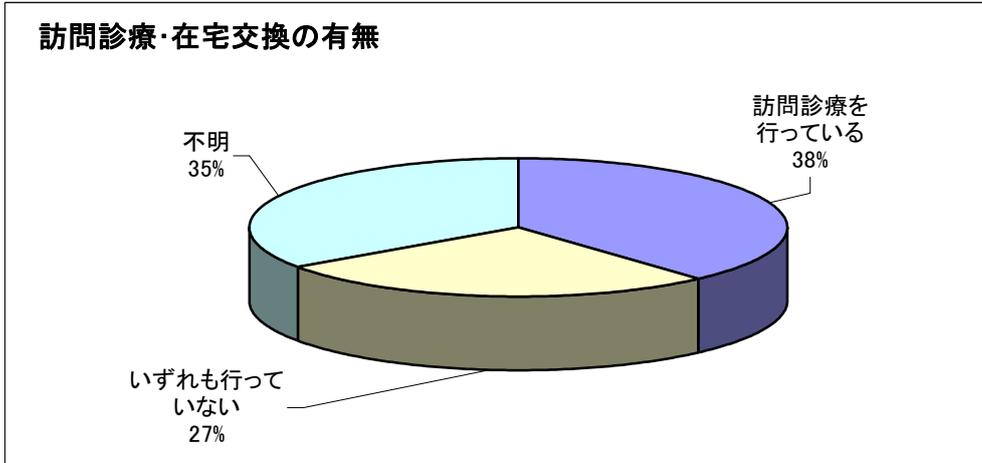


■ PEG造設時のインフォームドコンセントの程度

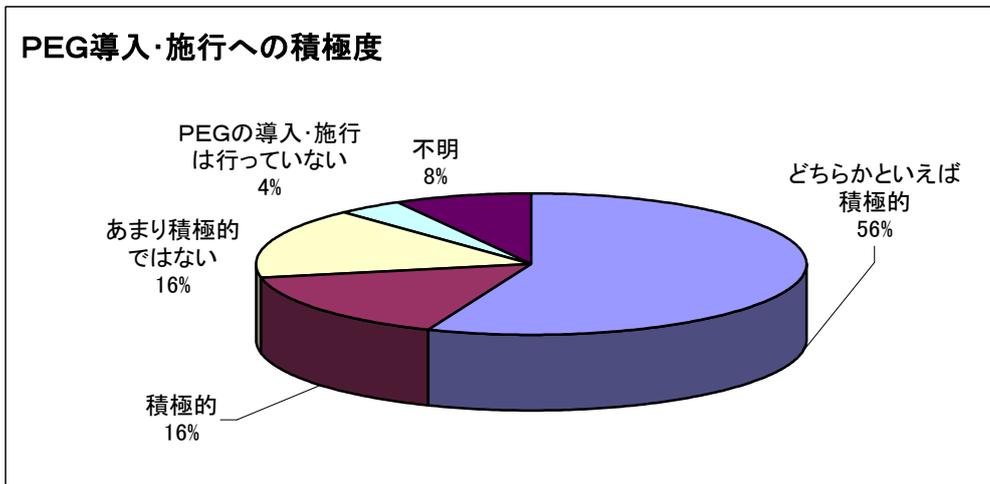
(所属先がPEGの造設・管理を行っている参加者について)



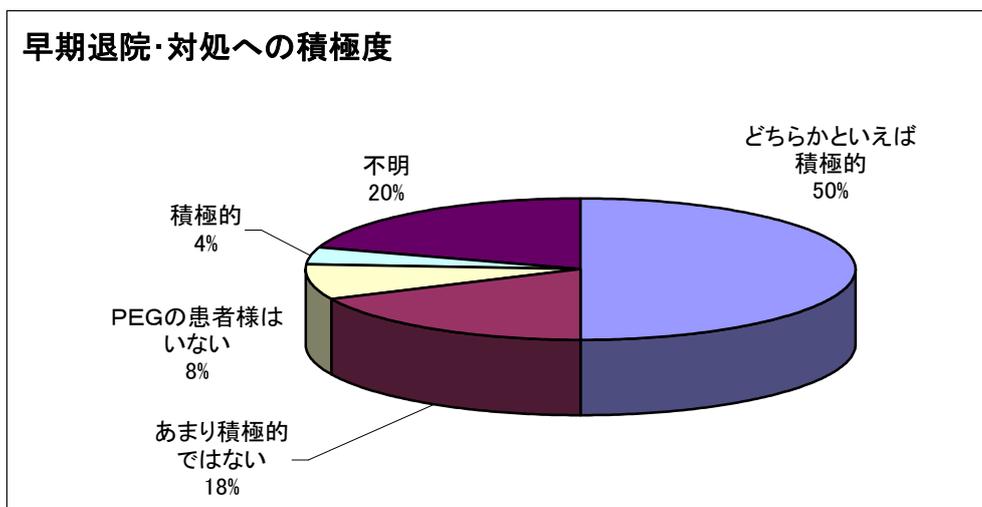
■所属先施設のPEGの訪問診療・在宅交換の有無



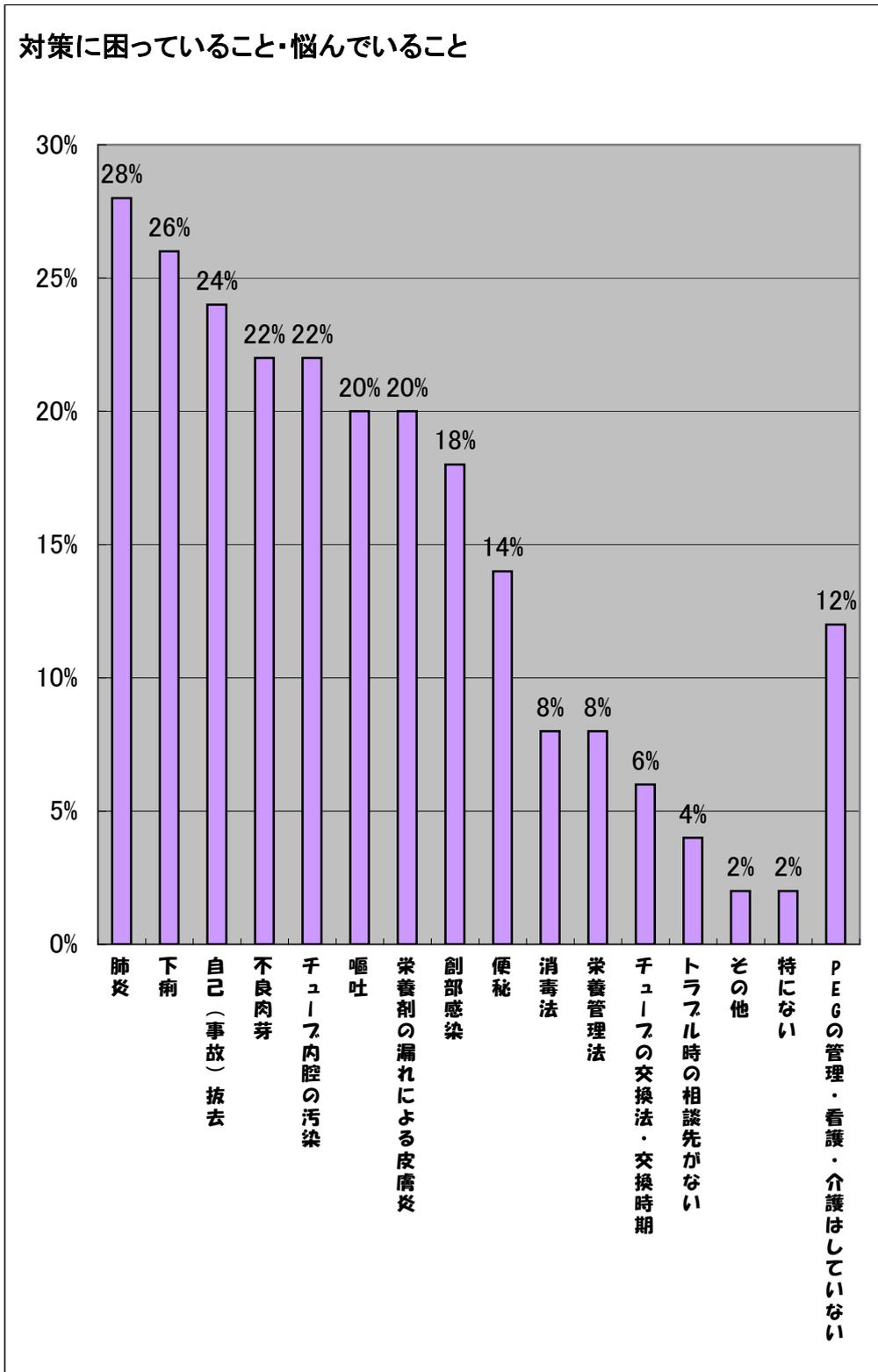
■所属先施設のPEG導入・施行への積極度



■所属先施設の早期退院・退所への積極度



Ⅲ. PEGの管理・看護・介護の中で、対策に困っている・悩んでいるもの（複数回答可）

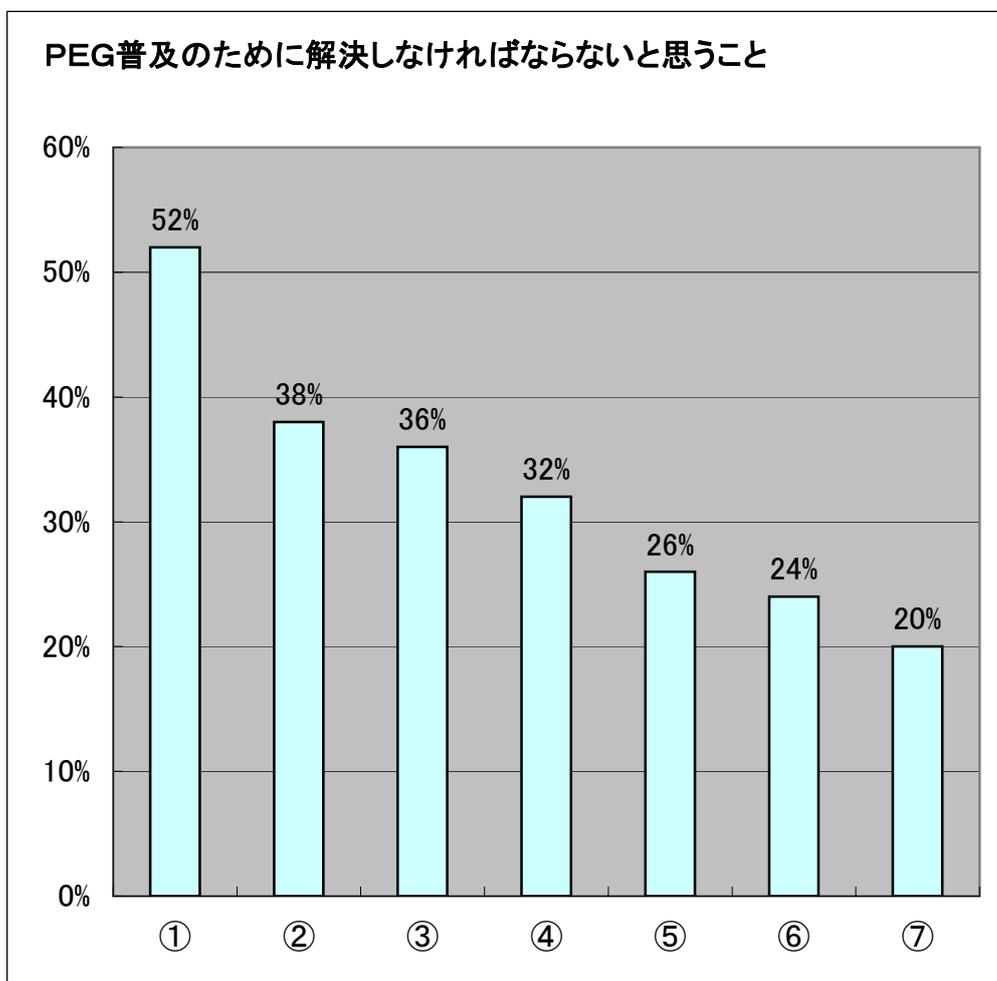


N=50

その他： ・逆流 ・長時間投与

IV. PEGをもっと普及させていくために、解決されなければならないと思うこと。

(3つだけあげてもらった複数回答)

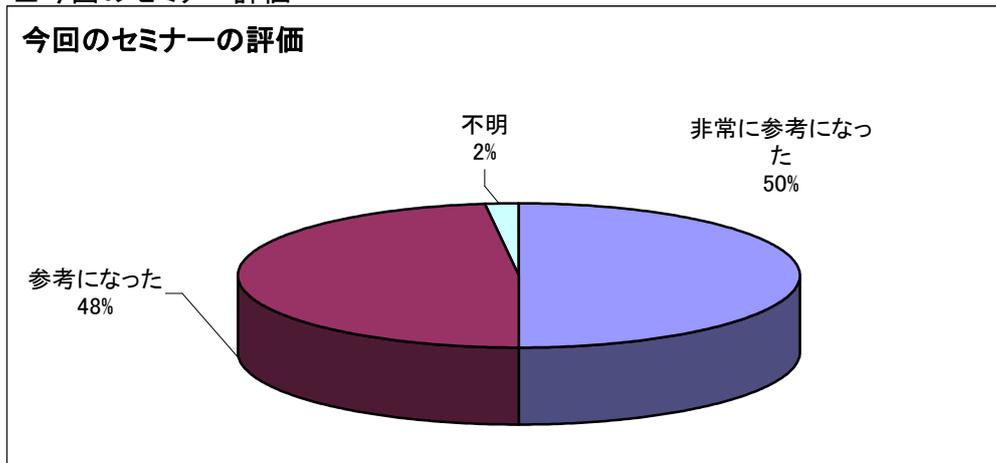


N=50

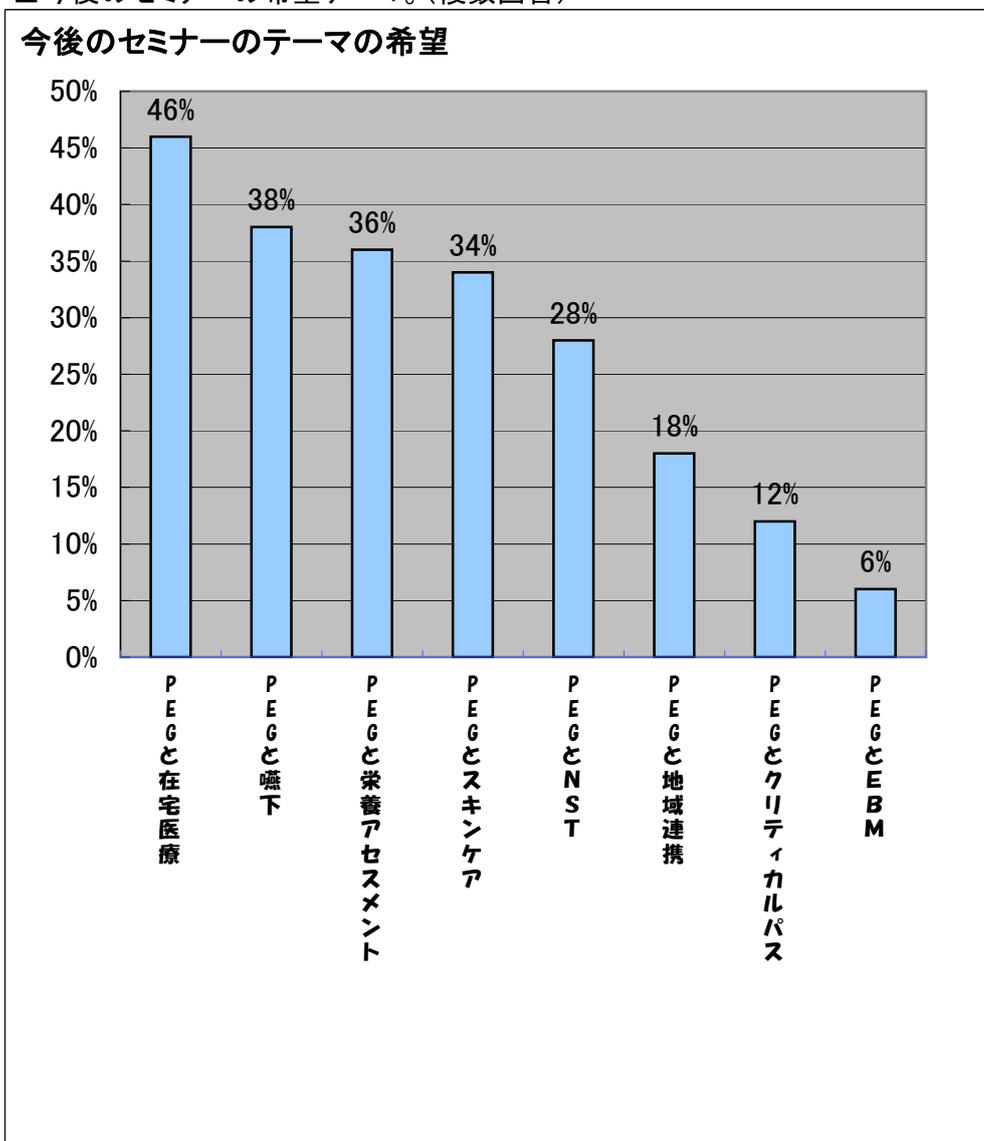
- ① PEGについての勉強会の充実。(PEGの栄養・嚥下についての知識の向上、NSTや在宅管理についての勉強会など) 52%
- ② 一般の人々や病院関係者に正しい理解を持ってもらうためのPRR活動の充実。 38%
- ③ PEGの手技・管理の標準化。(手技の安全かつ確実な施行、合併症の発生予防、発生後の対処方法、術後ケアなどの標準化) 36%
- ④ 造設、管理、看護、介護の全般にわたる院内連携や地域連携の確立。 32%
- ⑤ 食べられなくなれば即PEGというのではなく、PEG本来の「役割」をいま一度考え直してみる。 26%
- ⑥ PEGの適応、危険度を示す疾患・状態別のガイドラインの作成。 24%
- ⑦ 専門医や専門看護師の育成。(造設医の資格化、トラブルに対応できる専門機関の設立、コメディカルの育成など) 20%

V. 今回のセミナーの評価と、今後のセミナーの希望テーマ

■ 今回のセミナー評価



■ 今後のセミナーの希望テーマ。(複数回答)



N=50

VI. 自由回答意見

問. PEGの普及やPDNセミナーについて、どのようなことでも結構です。
忌憚のないご意見をお聞かせください。

- 小児のPEGについて知りたい
- PEGケアの方法を見直すよい機会となりました。
- もっと積極的な参加を促し、理解、知識を広めていただきたい。
私もこれからもっと知識を広めたいと思います。そして、在宅看護に活かしていきたい。
- デメリットよりメリットのほうが高いと思うので、症例によりますがEDチューブなどのマーゲンチューブの挿入より患者様には快適に過ごせると思います。
まだまだ普及されいない現実はありますが、PRは今後必要と考えます。

第1回PDN(PEGケア)セミナー・アンケート結果 (数字はすべて実数)

Q1.あなたの所属先は？(ひとつだけ)

一般診療所(無床)	2
一般診療所(有床)	1
一般病院	10
特定機能病院	0
地域医療支援病院	0
一般病院+療養型病床	11
療養型病床	5
脳神経外科病院	0
精神科病院	2
リハビリテーション専門病	0
特別養護老人施設	0
老人保健施設	4
有料老人施設	0
障害者施設	2
訪問看護ステーション	11
居宅支援事業所	0
在宅介護支援センター	0
その他	1 在宅複合型施設
不明	1

Q2.あなたは次のどれに当たりますか

看護師	17
栄養士	13
訪問看護師・准看護師	7
准看護師	5
医師	3
薬剤師	3
言語聴覚士	1
その他	1 臨床検査技師
介護福祉士	0
作業療法士	0
理学療法士	0
社会福祉士	0
臨床心理士	0
介護支援専門員(ケアマネジャー)	0
訪問介護員(ホームヘルパー)	0

[医師以外に対して]

Q3.あなたは現在PEGの患者の看護・介護を行っていますか？		Q4.PEGの看護・介護を行うようになってから何年位になりますか？(ひとつだけ)	
行っている	27	~3年くらい	8
行っていない	17	5年以上	7
現在は行っていないが以前行ったことがある	2	~半年	5
不明	1	~5年くらい	4
		~1年くらい	2
		不明	1

[医師に対して] N=3

Q5.先生のご担当診療科目は？(いくつでも)		Q6.先生がPEGの施行を行うようになったのは何年位前からですか？(ひとつだけ)	
1.外科	2	1. ~2, 3年位前	1
2.内科	1	2. ~5年くらい	1
3.内視鏡科	2	3. ~10年くらい	1
4.その他	0	4. 10年以上前~	0
		5. PEGの施行は行っていない	0
Q7.PEGを施行した患者様の原疾患は何でしたか？(いくつでも)		Q8.腹腔内誤挿入を経験したことがありますか？(ひとつだけ)	
1. 脳血管障害	3	1. ある	0
2. 認知症	2	2. ない	3
3. 神経疾患	2	3. PEGの施行は行ってない	0
4. 呼吸器疾患	1		
5. 外傷	0		
6. 癌	0		
7. その他	0		
8. PEGの施行は行ってない	0		

Q9.貴院では、一年間に、PEGの施行を何件行っていますか？(ひとつだけ)

- | | |
|-----------|---|
| 1. ~10件以下 | 1 |
| 2. ~20件 | 2 |
| 3. ~30件 | 0 |
| 4. ~40件 | 0 |
| 5. ~50件 | 0 |
| 6. 51件以上 | 0 |

〔以下全員に対して〕

Q10.訪問看護・介護を含めて、御施設にはPEGの患者様は何人いらっしゃいますか？(ひとつだけ)

1. ~5人:16 2. ~10人:6 3. ~20人:6 4. ~30人:6 5. ~50人:3 6. ~100人:0 7. 101人以上~:0 8. PEGの患者様はいるが人数はわからない:4 9. PEGの患者様はいない:8 不明:3

Q11.御施設では、PEGの造設・管理を行っていますか？(ひとつだけ)

1. 造設・管理を行っている:26 2. 看護・介護のみを行っている:17 3. いずれも行っていない:5
↓ 不明:2

N=26

Q12.御施設では、PEGの造設にあたって、患者様ご本人やご家族へのインフォームドコンセントが十分に行われていると思いますか？(ひとつだけ)

1. 十分に行われている:8 2. まあ行われている:15 3. 十分に行われていない:0 4. PEGの造設は行っていない:0
不明:3

Q13.御施設では、PEGの訪問診療・在宅交換を行っていますか？(いくつでも)

1. 訪問診療を行っている:10 2. 在宅交換を行っている:0 3. いずれも行っていない:7 不明:9

N=128

Q14.御施設は、PEGの導入・施行に積極的ですか？(ひとつだけ)

1. 積極的:28 2. どちらかといえば積極的:8 3. あまり積極的でない:8 4. PEGの導入・施行はまだ行っていない:4
不明:2

Q15.御施設は、PEGの造設後に積極的なリハビリを行うなど早期退院・退所に心掛けていますか？(ひとつだけ)

1. 積極的:8 2. どちらかといえば積極的:28 3. あまり積極的でない:8 4. PEGの患者様はいない:2 不明:4

Q16.PEGの管理・看護・介護の中で、対策に困っている・悩んでいるものがありますか？(いくつでも)

1. 自己(事故)抜去:12 2. 肺炎:14 3. 嘔吐:10 4. 下痢:13 5. 便秘:7 6. 栄養剤の漏れによる皮膚炎:10 7. 不良肉芽:11 8. 創部感染:9 9. チューブの交換法・交換時期:3 10. チューブ内腔の汚染:1 11. 消毒法:4 12. 栄養管理法:4 13. トラブル時の相談先がない:2 14. その他:1(逆流・長時間投与) 15. 特にない:1 16. PEGの管理・看護・介護はしていない:6

Q17.PEGをもっと普及させていくためには、どのようなことが解決されなければならないと思いますか。次の中から3つだけ挙げてください？(3つだけ)

- | | |
|---|----|
| 1 一般の人々や病院関係者に正しい理解を持ってもらうためのPRR活動の充実。 | 19 |
| 2 PEGについての勉強会の充実。(PEGの栄養・嚥下についての知識の向上、NSTや在宅管理についての勉強会など) | 26 |
| 3 PEGの手技・管理の標準化。(手技の安全かつ確実な施行、合併症の発生予防、発生後の対処方法、術後ケアなどの標準化) | 18 |
| 4 専門医や専門看護者の育成。(造設医の資格化、トラブルに対応できる専門機関の設立、コメディカルの育成など) | 10 |
| 5 造設、管理、看護、介護の全般にわたる院内連携や地域連携の確立。 | 16 |
| 6 PEGの適応、危険度を示す疾患・状態別のガイドラインの作成。 | 12 |
| 7 食べられなくなれば即PEGというのではなく、PEG本来の「役割」をいま一度考え直してみること | 13 |

Q18.きょうのセミナーは参考になりましたか？(ひとつだけ)

1. 非常に参考になった:25 2. 参考になった:24 3. 参考にならなかった:0 不明:1

Q19.今後のセミナーのテーマでは何を希望しますか？(いくつでも)

1. PEGと嚥下:19 2. PEGと栄養アセスメント:18 3. PEGとスキンケア:17 4. PEGと在宅医療:23 5. PEGとNST:14
6. PEGとクリティカルパス:6 7. PEGと地域連携:9 8. PEGとEBM:3 9. その他:0

Q20.所属先の所在地は？

県

市・郡

Q21.PEGの普及やPDNセミナーについて、どのようなことでも結構です。忌憚のないご意見をお聞かせください？